

# バンコマイシン TDM におけるトラフ濃度予測精度向上を目的とした 因子探索に関する研究のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：(2020年7月20日)～2022年3月31日

## 〔研究課題〕

バンコマイシン TDM におけるトラフ濃度予測精度向上を目的とした因子探索

## 〔研究目的〕

抗菌薬の不適正使用による薬剤耐性菌とそれに伴う感染症の増加が世界的に大きな課題となっています。バンコマイシン(以下、VCM)における薬物治療モニタリング(以下、TDM)は、耐性菌抑制や副作用回避、有効性確保のために重要な役割を担っています。近年、ベイジアン法を用いた母集団薬物動態解析により投与設計が行われていますが、臨床において予測値と実測値に大きな乖離が見られる場合があります。本研究では、VCMのTDMにおける予測トラフ濃度と実測トラフ濃度に差が生じる因子を調査・検討することにより予測精度の向上に寄与し、VCM の適正使用に貢献することを目的とします。

## 〔研究意義〕

VCM の TDM における予測トラフ濃度と実測トラフ濃度に差が生じる因子を調査・検討することにより予測精度の向上に寄与し、VCM の適正使用に貢献することが出来ます。

## 〔対象・研究方法〕

対象:2018年10月1日～2019年9月30日までにVCMが投与された患者です。

研究方法:患者の年齢、性別、身長、体重、診療科、VCM(投与量、投与日数、投与回数)、予測トラフ値、目標トラフ値、VCM 血中濃度(実測値)、CRE、Ccr、BUN、eGFR、Alb、CRP、1日輸液量、併用抗菌薬(投与量、投与日数、投与回数)、TDM 解析用紙の有無、TDM 依頼日、投与計画変更提案受諾の有無について後方視的に調査を行い、kruskal-Wallis 検定、 $\chi^2$  検定を用い解析を行います。

## 〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター

## 〔個人情報の取り扱い〕

匿名化し個人情報を扱い、研究発表も匿名で行います。個人情報が病院外に持ち出されることはありません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:部長 飯塚 雄次

研究責任者:係長 三浦 幹剛

所属： 帝京大学ちば総合医療センター 薬剤部

住所： TEL:0436-62-1211（代表）〔内線 5199 〕